

## 傳

近來‘科學の振興’といふ事が凡ゆる方面から喧しく呼ばれる様になつて來た。此聲はもともと科學者の側から發せられたものであるが、其頃は餘り顧みられなかつたものである。然るに支那事變に於ける貢獻により、技術乃至は科學の重要性が次第に一般に認識せられる様になつた所へ、歐洲戰に於ける獨逸科學の驚くべき成果と、今日の我國の極東に於ける地位との關係から、益々これに油を注いだと見るべきであらう。そして吾々科學者は此呼びを聞く毎に其多様な期待を直觀して容易ならぬ重責を肩に感ずるのである。

‘科學の振興’は一般世人の考へる様に簡単に行はれるものではない。ローマが一日にして成らざる如く、企業政治家の夢みる様に、一國の科學が短日月にして勃興するものと考へたら大間違ひである。自分は此際それと正反対に代を重ねて日本の科學を向上せしむる傳統の創造を強調したいと思ふ。勿論目前の急を要する問題の解決に當つてはそんな悠長な事は云つて居られないことは明である。然しそれは‘科學の振興’の本筋に屬するものではなく、寧ろ技術の動員の問題であつて別に論議を要するから茲には述べない。唯だ附加して置き度いことは、斯様な緊急の問題に解決の鍵を與へるものは、其國の科學の水準であり、其水準の高低は代を重ねた良き傳統の存否に關する所が多大であるといふ事である。

‘科學の振興’を齎すべき方策は多種多様である。例へば人材、資材の問題、組織、施設の問題、これ等は科學を振興せしめる條件として缺くべからざるものである。然しこれは云はば外的條件であつて、如何にこれ等が整備して居つても、それ等の人材又は施設が其全機能を發揮して活躍する環境に置かれて居なければ、それは死物に等しい。然らば其環境といふのは何であるか。勿論上述の外的諸條件も環境の釀成に大切な役目を持つて居ることは當然であつて、其一つをも缺くことは出來ないが、更に今一つ重要なことは人と人との接觸によつて作り出される霧圍氣である。此霧圍氣が或は一國の或は一組織の、科學のみならず政治でも經濟でも、一つの內的水準を形成するに缺くべからざるものである。

## 統

所で此霧圍氣の形成には良き傳統の力が決定的な要素をなして居る。代を重ねた傳統の力で各個人は知らず知らず素養が高められる。そして斯様にして釀された霧圍氣を有する環境では高い水準が出來て居るから、勞せずして偉大なる發見、發明がなされる。これが所謂天才である。そして天才が出れば其傳統は益々純化向上せられ、それに導かれて出來る環境では又天才が育まれるのである。そして此傳統、環境、天才の關聯循環が科學の永遠の發展を齎すものである。

以上で明な通り傳統は固定してはならない。外界の變化、環境の進歩と共に向上すべきものである。若しこれが時勢に取り残されるか又は退化の路を辿る時は、其傳統は却つて有害である。而かも其害たるや深い根を下して除き難いことは歴史の示す所である。指導者たるものは勿論各人は常に此點を顧みて傳統の向上に心を用ひなくてはならぬ。苟も傳統の向上に妨げとなる要素は凡ゆる努力を拂つて除去しなければならぬ。又其向上に資することは、施設、組織等、出來得るだけ迅速にこれを達成することが必要である。代を重ねるといふ遠大な仕事も、其出發は目前の些事より始まるのであり、萬事眞剣の心構へが必要である。

前述の歐洲大戰の獨逸軍の威力に刺戟されて、‘科學の振興’を唱へる人々の多くは、今日の獨逸の科學乃至技術が、如何なる歴史と傳統とに培はれたものであるかを閑却して、豫算さへ増せば、或は研究所や組織さへ新設すれば、我國の科學は一舉にして世界一流となるといふ様な錯覺を抱いて居るのではないかといふことを怖れる。最近日本に2年間滯在して歸つた獨逸の一青年物理學者は‘日本の物理には技術方面に傳統が缺けて居る’と洩した。洵に味ふべき言葉であると思ふ。

勿論體制を改め各人の全能力を發揮せしめる組織を作ることによつて、從來よりも科學の進歩の速度を増すことは出来るであらう。然し科學といふ高度に人の頭腦を必要とする一國の文化は、決して一朝一夕に築き上げられるものではない。どうしても代を重ね傳統によつて連續的に向上して行くより外はない。そしてそれが眞に‘日本の科學’を建設することになるのである。(仁科芳雄)